

平成 20 年度第 1 回ロボカップジュニアジャパン実行委員会議事録

日時：平成 20 年 5 月 3 日(土) 18 時 30 分～19 時 30 分

場所：静岡県沼津労政会館第 2 会議室

参加者：運営委員、ブロック長、技術委員、広報委員、事務局員 他

資料：ロボカップジュニア web 公式コミュニティ「総会について」

http://www.robocupjunior.jp/new/modules/menu/main.php?page_id=27&op=change_page

1. 運営委員、事務局紹介

高橋（日本委員会専務理事）、北原（渉外担当）、野村（国際担当）、金田（国内担当）
前田、音居、東（事務局）が、各々自己紹介。

2. ロボカップジュニアジャパンの運営体制（高橋理事から説明）

- ・ ジュニアジャパン運営規程を H18 年 12 月に暫定で策定、H19 年 5 月ジュニアジャパン総会で承認、現在、それに基づき進めている。
- ・ H19 年 5 月から、高橋（日本委員会専務理事）、北原（渉外担当）、野村（国際担当）、金田（国内担当）が任期 2 年で就任。
- ・ ロボカップジュニアジャパン運営規程

http://www.robocupjunior.jp/office/exec/rcjj_kiyaku1130.pdf

3. J S T について（高橋理事から説明）

- ・ J S T は文部科学省の外郭団体。ロボカップジュニアジャパンは J S T が支援する「国際科学技術コンテスト」の一つとして、H19 年度から H23 年度の 5 年間、支援を受けている。ただし、契約は 1 年ごととなっている。
- ・ H19 年度の実施内容、H20 年度の実施予定については、HP に公表している。H19 年度にブロック大会に行った支援などは、この J S T の支援金から出ている。
- ・ 資料

http://www.robocupjunior.jp/new/modules/menu/main.php?page_id=27&op=change_page

[ロボカップ平成 19 年度成果報告書 080407.pdf](#)

[H19 収支決算書 20080411.pdf](#)

[H20 事業実施計画書 20080310ver3.pdf](#)

[H20 支援額計画・決算要領 20080429.pdf](#)

4. H19 年度 J S T 国内大会支援内容について

（1）H20(2008)年 5 月ジャパンオープンへの取り組み（金田運営委員から説明）

○ブロック大会、ノード大会の開催

ブロック大会：北海道、北信越、関東、東海、関西、九州、四国

特別ブロック（新規立上）大会：沼津、仙台、広島

ブロック、ノード大会一覧

http://www.robocupjunior.jp/new/modules/menu/main.php?page_id=27&op=change_page

資料：ノード・ブロック大会一覧 H19 年度.pdf.

○ブロックからの参加チーム数の決定方法

H19 年 11 月のブロック長、技術委員会議で提案。

異論がなかったため、各ブロック最低チーム数を設定。

サッカー6 チーム、ダンス 3 チーム、レスキュー3 チーム

○ジャパンオープンの参加チーム総数について

各チャレンジ技術委員と話し合い決定。

サッカー 出光チーフ、ダンス 長田チーフ、レスキュー（岡田チーフ→水野チーフ）

サッカー65 チーム、ダンス 24 チーム、レスキュー32 チーム、（中国 11 チーム）

今後の総チーム数については3 日間で行う場合はこれが限界。今後どのように行っていくかが課題。

○スタッフ

サッカー コート数(13)×2 名、レスキュー、ダンス 各 10 名、受付 4 名、

プレゼン貼り付け等、計 7 5 名程度が必要。

5. H19 年度 J S T 国際大会支援内容について（野村運営委員から説明）

（1）2 0 0 7 アトランタ世界大会報告

- ・ 各チャレンジ（プライマリ、セカンダリ）3 チームずつ出場
- ・ 現地ではスーパーチーム方式（複数チームが集まって 1 チームを作る）を行いチーム同士が交流。日本チームは海外チームにもまれながらも良い結果を残した。
- ・ 大会に出て気付いたこととして、超音波センサーの干渉問題が発生した際、トラブルをどう解決するか、ということで参加生徒の理解の深さがわかった。

（2）2 0 0 8 蘇州大会について（予告）

- ・ 7 月 15 日受付、7 月 16 日ー18 日競技、19 日決勝予定
- ・ 日本からの参加チーム枠
ダンスプライマリ 2、その他は 3、GEN II 2 計 1 9 チーム
- ・ J S T 支援費で旅費補助をするスタッフ

資料 6：J S T 旅費規程.pdf

各チャレンジ技術委員 1 名＋事務局 1 名

技術委員が現地に入り、スタッフとして貢献することにより、日本からの国際委員会 T C メンバーへの加入数増加を目指す。現在、野村運営委員がサッカー T C、江口さん（ニューヨ

ークの大学教員) がダンスTCとなっている。

- ・ 世界大会では下記のデモンストレーション競技会がある。

① RoboDemo

プレゼン+簡単なデモ

- ・ 地域での教育実践、研究活動の紹介
- ・ 次期ルール、活動の提案

→自費参加であれば誰でも参加可能

②デモ競技会

- ・ 次期ルール候補の紹介と検討。2008年世界大会では Soccer GRN II を行う。
- ・ GEN II ルール競技に参加するのは、各国から1～4チーム、計12チーム。日本に対して2チーム枠。

(3) 世界大会事前講習会

- ・ 昨年初めて行った活動。世界大会参加チームが所属する関東、東海、関西、九州ブロックで開催。
- ・ 語学指導(会場、旅行での英会話、国際ルールの解説。)等。

(4) その他国際活動として

世界大会での各国参加枠は減少方向(参加国数は増加傾向)。ジャパンオープンに海外チームにきてもらうとともに、日本チームも海外の競技会に参加してもらい、他国チームとの交流を図る場を増やしていく考え。

6. その他JST支援内容について(北原運営委員からH20年1月にJST報告会にて話した内容をもとに説明)

○JSTとロボカップジュニアのかかわり

JSTが支援をしてくれるのはロボカップ日本委員会であり、その中にロボカップジュニアジャパンがある。

ロボカップジュニアジャパンには、「運営委員会」があり、また、「ジャパンオープンの実行委員会」がある。

「ジャパンオープンの実行委員会」は、運営委員、ブロック長、技術委員で構成されている。

http://www.robocupjunior.jp/new/modules/menu/main.php?page_id=27&op=change_page

[ロボカップ平成19年度報告書1\(月\)体制図 20080123.pdf](#)

○ロボカップジュニアジャパンの普及活動コンセプト

- ・ 地域格差をなくし、機会均等を図る。
- ・ 継続的なフォローアップ体制作り。(受益者負担も必要。)
- ・ 指導者の育成

○ロボカップジュニアジャパン広報活動

ロボカップの子どもたちへの励みとして

- ・学校、教育委員会へのPR
- ・内申書にロボカップの成績を評価してもらうよう、働きかけ。

○H19年度の活動

(1) 合宿の開催

<目的>

- ・モチベーションとスキルの向上
- ・世界大会参加者のプレゼンやデモを実際に見る
- ・他のチャレンジへの意欲
- ・シニアへの挑戦

<内容>

- ・講演会
- ・交流会
- ・初対面同士のチームに分かれて、レスキューロボット大会（トップジュニアとノードレベルの子どもを組み合わせる）
- ・共同でサッカーロボット作成
- ・サッカー大会
- ・シニア（小型ロボットリーグ）の紹介

<H20年度合宿予定>

- ・各ブロックから選抜された次期世界大会を目指す人材の育成
- ・8月実施予定 場所は未定（滋賀県？）

(2) 普及支援活動

- ・普及用DVD（世界大会）、研修用DVD（レスキュー）の作成
- ・出場者の学校、教育委員会への連絡
- ・審判講習会
- ・特別ブロックの開設
- ・HPによる情報の一元化

○ H20年度年間スケジュール

9月まで：特別ブロック立上。全てのノード長、ブロック長を決定していただく。

11月：ブロック長会議

合宿、HP等についても今後提案していく。

[質 問]

○今年の世界大会出場枠について

ダンスプライマリ 2、セカンダリ 3、ということだが、プライマリのほうが出場者が多いので、枠を増やしてもらうことはできないのか。(黒木関東ブロック長)

→国際的にもプライマリの参加国数が多いため、1 国あたりの枠が少なくなった。(野村運営委員)

○予算の使い方について

ジャパンオープン会場費に多額の資金を投入しているが、4 年後の自立に備えるためにもハードではなく普及費などのソフト面に支援金を使いうべきではないか。(黒木関東ブロック長)

→ジャパンオープンの開催は自治体の分担金があって成り立つ話。自治体としては、多くの観客に来てもらい自治体を P R するのも開催目的の一つ。こちらの意向で会場費を削るわけにはいかない事情がある。予算の使い方については、11 月に開催予定のブロック長、技術委員の会議でも検討していただきたい。(高橋理事)

○大会運営フォーマットを普及させてほしい

ジャパンオープンで多くの資料や記入フォーマットが作成されているが、これらをオープンにし、ブロック、ノードでも使えるようにしてほしい。(長田ダンス技術委員チーフ)

→3 チャレンジ運営のためのフォーマットが育っているので、ブロック、ノードで使っていただけるようにする。(金田運営委員)

○指導マニュアルがほしい

各チャレンジの指導マニュアルがあれば、そのチャレンジがないノードやブロックでも指導することができるので、是非作成してほしい。(吉楽北信越ブロック長代理)

→レスキューチャレンジは H19 年度に DVD を作成したので、配布する。現在、参加チームの 7 割がサッカー。これを是正させていきたい。

各ブロックの技術委員から、「うちは、このチャレンジについて指導マニュアルができる」というものがあれば是非手をあげていただきたい。また、既にあるものをバージョンアップしていくこともお願いしたい。予算は予定してある。(北原運営委員)

○技術委員チーフの決定方法

各ブロックから技術委員を選出し、ブロック長会議で技術委員チーフを選出していくことになるが、ロボカップジュニアジャパン全体で技術委員をサポートしていかなければ、技術委員チーフに過度の重圧がかかる。(中島関東ブロック神奈川ノード長)

→ジュニアジャパン全体でサポートしていく。(高橋理事)

以上